

もの言う牧師のエッセー 第186話 ④「ピケティとゲイツ」

人を大切にする

この春に、世界で150万部のベストセラーとなっている『21世紀の資本』の著者、トマ・ピケティ氏が来日し話題となった。資本収益率が経済成長率より高い資本主義社会では、資本の平均年間収益率は4~5%、対する所得や産出の年間増加率はせいぜい1~2%なので、必然的に資本の集中と所得分配の不平等が進んだという。そこでピケティ氏は、「世界が力を合わせ資産家からもっと税金を取ろう」と訴える。面白いのは本の中で度々やり玉に上がっているマイクロソフト社を創った億万長者のビル・ゲイツ氏が「大賛成！」とブログで表明したことだ。すでに総額3兆円以上を教育や世界の疾病対策などに寄付してきた吾人は言うことが違う。

一方で彼は、ゼロから事業を興して成功した人の富と遺産相続でたっぴりの富は全然違うし、富の使い方も、企業投資、慈善活動に寄付、贅沢品購入と様々なので、一括して富を論ずることには釘を刺している。なるほど、これは土地資本への集中によって都市集積利益が全て地主の利益に帰着する東京圏の経済を目の当たりにしている日本人にはピンと来る。東京都区部の大規模土地(2000m²以上)を所有する個人・法人は14,502人。彼ら大地主が区部宅地面積の30.8%を占めていることは周知のとおりだ。

さて、「世界寄付指数」を出しているイギリスの団体CAF(Charities Aid Foundation)によると、ここ数ヶ月以内に“人助け・寄付・ボランティア”を行なったかどうかの調査を世界135カ国で実施、昨年は米国とミャンマーが同率首位、日本は90位で、これは東アジアでは中国の128位、カンボジアの108位に次ぐワースト3位であった。実は聖書には資産家が大勢登場し、“良いやつ悪いやつ”色々いる。その中で最も高潔な人物の一人がヨブであるが、ご他間にもれず彼も宴会やドンチャン騒ぎが大好きであった。が、

「パーティーが終わると、ヨブは決まって子供たちを呼び寄せ、彼らの身をきよめる儀式を行ないました。彼は朝早く起き、子供たち一人一人のために、完全に焼き尽くす生贄を捧げるのでした。彼は口癖のように、「息子たちが、もしかしたら罪を犯し、心の中で神様に背いたかもしれない」と言っていたからです。この儀式はヨブの年中行事の一つになっていました。」

また、

「『わしは曲がったことの大きらいな判事として、生活苦にあえぐ貧乏人や、身寄りのないみなしごを助けてきた。』」ヨブ記1章5節と29章12節：LB、

とあるように、彼の行動的特徴はズバリ神への礼拝と弱者への奉仕である。前者だけだと単なる宗教、後者だけだと単なる慈善だが、両者を見事に成就したのが福音（ゴスペル）を体現したキリストだ。人を大切に思っていた彼は、その身を投げ出し十字架にかかり、不平等極まりないこの世の身代わりとなって人々を救われた。人を大切にする行為は、そんな彼を敬って初めて可能なのである。

2015-6-5

